

〔目的〕農村三世代家族におけるG₂妻の就業形態により、生活構造がどのように違うのかを明らかにする。

〔方法〕静岡県志太郡岡部町朝比奈地域の三世代家族の上二世帯(G₁母とG₂妻)それぞれに対し、1986年に統計調査を、1987年に事例調査を、訪問面接聴取法により行った。分析対象は、1986年調査では、G₁母・G₂妻共に有効な回答の得られた129組、1987年調査では、このうち農家に限り、G₁母・G₂妻共に有効な回答の得られた20組である。分析対象(1986年調査)の基本属性は①平均年齢—G₁母68.5歳、G₂妻39.4歳②家族構成—完全三世代家族63%、G₁父欠損三世代家族37%③農業経営形態—専業農家27%、兼業農家57%、非農家16%④G₂妻の就業形態—農業45%、商工自営5%、常用雇用19%、パート20%、無職10%。

〔結果〕①無職の場合、有職に比べG₂妻に家庭生活重視型が多いが、生活全般満足度は低い。②農業の場合、食料品の購入、朝食づくりは、G₂妻が、ほとんどしているが、夕食づくり、日中のG₃子供の世話については、約半数はG₁母が主に担当している。また農業のG₂妻には、家庭生活に非常に満足な人が他に比べて多いが、職業生活満足度は低い。家計管理形態について、「全員の収入を1つのサイフにまとめる」割合は、常雇・パートに比べ高い。③常雇の場合、G₁母が主に家事を担当している(特に夕食づくり、日中のG₃子供の世話や送り迎え)。また、農業やパートに比べ、G₂妻の世帯収入満足度は高く、G₁母にもその傾向がうかがえる。④家庭外就業者(パートも含む)は、平日、G₁世代とともにいる時間は短く、G₁母やG₃子供に気兼ねしつつも、働くことの意義を見い出している。